

## 追悼・今井先生：その真に良質なるもの

中野，三敏  
福岡大学教授

<https://doi.org/10.15017/9089>

---

出版情報：文献探究. 43, pp.1-4, 2005-03-31. 文献探究の会  
バージョン：  
権利関係：



---

## 追悼・今井先生

その真に良質なるもの

中野三敏

今井先生が逝かれて、はや一年を迎えようとしている。私を九大へ呼んで下さったのが昭和四十七年だから、それから数えて三十年を越す御交誼を賜ったことになる。

ちょうど大学紛争の最末期の頃で、学生部長の様な御仕事だったと思う。というのは、何しろ私大出の私など、旧帝大の中の仕組みはさっぱり見当もつかぬうえに、来た匆匆から授業粉碎を叫んでやってくる活動家の学生から古参教授を守る役目などと、全く柄でもない仕事を割あてられ、教室でわがもの顔に暴れ廻る学生を呆然と見ていると、今井先生が厳しい顔で入ってこられて、誰と誰がどんな暴れ方をしているかを、誰何し、現認する、などという御仕事をやっておられたので、勝手に学生部長のような御役目かなと思っただことだった。ある時など、もみ合い最中、先生の背広の背中がまっ二つに裂けてしまうなどという修羅場にも立ち合ったりした。裁判になつて、法廷で誰と誰とが暴行したかを証言するという役目も、躊躇なく果たされた。

---

---

自分の大学の学生相手のこと、誰しも実に嫌な思いに違いないが、一端腹をきめた以上は、決然としておられたのが、今も目に浮ぶ。後に、あの時ほど情ない思いをしたことはなかったと述懐しておられた。一方また、こういう時に逃げるな、というのが中村先生から教えられたことでネ、と言われたのは、今度は私に対する御訓えであったようにも思う。

とても大学を出る迄は持つまいと、自他ともに認められた蒲柳の質は、この時乗りこえられたのではなかったか。以後は御退官まで却って御元氣になられたようにも見えたので、私自身は先生の御病弱な御姿は余りおぼえていない。ソウルの外語大への一年の出講も寧ろ大いに面白がって勤められた。まだソウル・オリムピックの前で、対日感情もひどくトゲトゲしく、当然その神経は山あらしの背中 of 如き状況であられたろうが、物見遊山の気分を訪れた我々を、一方で氣を使いながら、一方で盛んに楽しませようとして下さったことなど、思い出されて頼が緩む。

有名な、その奇行ぶりについては、まだ誰しも鮮烈なものばかりで、敢えて記すまでもないような氣がする程である。実は門下生諸氏と謀って、その奇行の数々を伊勢物語風の文体に仕上げ、一冊にしようとしたのだったが、余りに多すぎて收拾がつかず頓挫させてしまった。名前も「げむゑもの」がたり」と題して、後世書写の段階で「ゑ」文字を「志」と誤り、それが「げむ志ものがたり」となったのだという落ちまで用意し、実は先生自身がその完

---

---

成を楽しみにしておられた風情でもあったのに、頓挫せしめたのは本当に申し訳ないことと、こればかりは悔まれてならぬ。

「近世畸人伝」に池大雅が絵筆を忘れて出かけた折、建仁寺の側でようやく追いついた妻の玉瀾が手渡すと、大雅は、誰方かは存じませんが御親切にと、深く頭を下げて行ってしまったという、有名な逸話があるが、先生の奇行も殆んどこれに類するものばかりで、私の実見した中の秀逸は、当時有名な原鶴温泉のジャングル風呂が、混浴とは言っても遙か彼方の向う側が女性用で、間に仕切りはないけれど湯煙りで殆んど見えぬ、その中央の辺りで、先生、前を押えてしきりに頭を下げておられるので、傍へ行ってみると、湯の中に建てられた大理石の女人像に向って、眼鏡をはづして恐縮しきった瘦せっぽちの先生が、頭を下げておられたのだった。

この種の奇行というのは、得てして極めて集中力の強い人にはありがちなことのように思う。何かの考え事をしながら中央までつい進んでしまった先生の目の前に、突然あらわれた女人像に恐縮する先生と、妻女とも気づかぬ大雅堂と。時代を越えて傑物の所行は相似ている。

戦後の風潮として、一高・東大といえば鼻持ちならぬエリート意識の象徴のように言われたが、どこかの首相の言いぐさではないが、一高・東大といってもいろいろである。先生がその最良の美質の主であったことは、僅かでも接し得たものならば誰しもが感得した所であった。しかもその最後の人で

---

---

あつたこともまた間違いない。

先生の逝かれた今、私は若い人達に、その美質を説明する最後の手段を失ったことに気づく。時代の本当に良質なるものは、このようにして確実に失なわれていくのであろう。

本稿の要請を受けたその翌日、笠間書院の月報にも同様の寄稿を求められた。追悼文を二種は到底為し得ぬ所と、両所に諒解を得て、重載を御許し戴いた次第である。

\* 編集部注・中世王朝物語全集 16『松陰中納言』（笠間書院、平成十七年五月刊行予定）の栞（第八号）より転載。

（なかの みつとし・福岡大学教授）